

夏の大爆音

hiroro1926

1. 出会い

俺の名前は岡崎俊太15歳、今日は高校の入学式だ

「おきてー俊太、早くしないと間に合わないよ！」

「ん？・・・ あ、やべえもうこんな時間！」

起きた時間は8時15分 入学式は8時30分からだ

「俊太朝ごはんどうするの？ー」

マイペースな母が言う

「いらないから早く急ごう！」

そして俊太は5分で制服に着替えて母の車で学校にむかった

「ふうー間に合った、母さん今何時？」

「8時28分よ」

俊太は諦めた

「じゃあ母さんは仕事いってくるからね いってらっしゃーい」

俊太はやる気のない声で言った

「いってきまーす」

走って校門まで行く

「えーと俺は何組だ 1.2.3・・・4組 4組だ 急ごう」

走って1年4組までむかった。

「すみません！遅れましたー！」

そこにはだれもいなかった。

「あ・・・」

俊太は体育館にむかった

「やべえ、もう始まってるところに座ればいいんだ？」

俊太はとりあえずこっそりあいてる席を探した

「君何してんだい？」

先生らしき人が話しかけてきた

「あの1年4組の岡崎俊太って言うんですけど遅刻で・・・どこに座れでいいかわかなくてあいてる席を探してました」

俊太は正直にいった

「まったく入学式そうそう遅刻か、とりあえず校長先生の話が終わるまではここに座ってなさい」

そう言われ俊太は先生の席に座った

「ありがとうございます」

校長先生の話は20分間続いた

「まだかよ・・・」

そして校長が言った

「えー改めまして入学した生徒の皆さんご入学おめでとうございます」

そう言い話は終わった

「やっと終わったよ・・・」

「次は生徒を代表して神高あやねさんに一言述べてもらいます」

俊太は思った

「あのこすごいかわいいなあ」

俊太は神高さんに一瞬で惚れた

「私達は・・・」

そして神高さんの話は終わった、俊太はずっと見とれていた。

「これで第28回入学式を終わります」

教室に戻った

「先生俺の席はどこですか？」

「あれ君は遅刻した岡崎俊太くん？」

「そうです・・・」

恥ずかしがりながら言った

「君はそこの神高さんの後ろだよ」

俊太の心臓がばくばくしはじめた

「よろしくね！えーと岡崎俊太くん？」

俊太は声を震わせて言った

「ははははっはいそ・そ・そそうです！よよよよろしくです」

「はいじゃあホームルームはじめます！

「今日はお疲れ様！ということで自己紹介させていただきます」

「私は1年4組の担任になりました数学科担当の綾野麻衣といいます！よろしくね☆」

見た目はすごい若そうだった

そしてホームルームも終わり下校に

「気をつけて下校してくださいね」

こうして入学式は終わった

そして下校中に大事なことを思いだした・・・